

# 教育コーディネーターとして、 NPO DNAの役割

# “学校と社会をつなぐ”ための3つのフェーズ

「学校」と「社会」の双方の立場で、どのように子どもたちを支えるか？を  
考えて、それぞれコーディネート（調整・とりまとめ）していく。

## 調査・現状把握

### 对学校

- ✓ 学校ニーズの把握

### 对地域社会等

- ✓ キャリア教育に必要な地域資源の把握

## 設計・調整

### 对学校

- ✓ プログラム開発・改良
- ✓ 各種教材開発・改良
- ✓ 実施までの進行管理

### 对地域社会等

- ✓ 教育支援人材の調整・研修・サポート
- ✓ 実施までの進行管理

## 実施・振返り

### 对学校

- ✓ 当日運営支援
- ✓ 効果測定・フォローアップ
- ✓ 実施記録・報告書等

### 对地域社会等

- ✓ 当日支援
- ✓ 実施記録・報告書等

改  
革

さらなる改革へ

# 【フェーズ1】 調査・現状把握

それぞれの立場で抱えている悩み・課題・資源について把握フェーズ。  
普段見えていないところをどう見える化し、チームとして取り組めるか。

調査・現状把握

設計・調整

実施・振り返り

改  
革

## 对学校

- ✓ 学校ニーズの把握

### それぞれの“言語”を理解する

普段の仕事/活動内容・背景を理解し、どのような意図をもって仕事/活動されているのかを把握する

## 对地域社会等

- ✓ キャリア教育に必要な地域資源の把握

### 具体的な言葉で“目標”を落とし込む

「主体性を身に付けさせたい」「会社紹介をしたい」等のマジックワードに気を付けて“目標”を落とし込む

### “見える化”して互いが目指す方向性を確認する

言葉だけではなく、企画書やメモなども駆使しながら、目指す方向性を確認し合う

# 先生たち同士でも話し合えていないこともある

The image features a large whiteboard with handwritten Japanese text and diagrams. The text includes '探究学習' (Inquiry Learning), '学校の教育目標' (School's Educational Objectives), and '教育目標の具現化' (Realization of Educational Objectives). There are also some numbers like '10代' (10s) and '40' circled. To the right, there are two photographs of classroom scenes. The top photo shows a teacher and students at desks. The bottom photo shows a teacher and students at desks, with a screen in the background.

**10代がしなやかに育つ機会と環境をどうつくるのか？**

**先生たち同士で言語化して**

**教育活動に反映する**

全体の見通しをもつ

1学年

自己を知り、社会を知り、  
自身の探究課題を見いだす

1学期

未来を切り拓いていこう  
0-100%の割合

2学期

0-100%の割合、切り拓く理想像を表現する

3学期

切り拓く未来に向けた探究課題を設定する

2学年

現代的な諸課題を  
知り、その解決策を探る

1学期

探究課題の仮説・検証

ガバンス  
仮説・検証のゼミ

2学期

進路との接続と仮説・検証の深化

3学期

解決策を適切に切り拓く表現

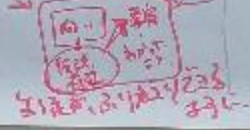
Q. 研究報告書の内容がどうなる?

生徒の意向や状況  
に合わせた指導

現代の諸課題  
7-8%の割合

100%文章

6-7%の割合  
20%の割合



3学年

現代的な諸課題④  
を知り、その解決策を探るII

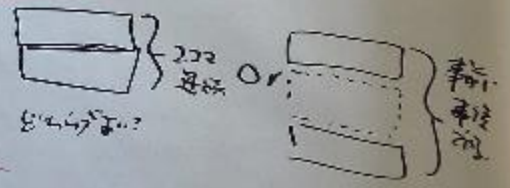
① 探究学習



② 進路学習

進路理由は「何をしたいか」

③ 小論文



## 【フェーズ2】 設計・調整

どのような「授業・プログラム」に落とし込めるか。

また、どう意図をもって参画していただくことができるか。

調査・現状把握

設計・調整

実施・振り返り

改  
革

### 对学校

- ✓ プログラム開発・改良
- ✓ 各種教材開発・改良
- ✓ 実施までの進行管理

### 对地域社会等

- ✓ 教育支援人材の調整・研修・サポート
- ✓ 実施までの進行管理

「目標」に対しての“階段”を意識して工夫する

授業のどこで、当初立てた目標を達成できるようになるのか、その工夫をオリジナルで考えて設計する

“1時間の授業”に詰め込みすぎない

工夫を重ねすぎると、当初立てた「目標」が失われがち  
あれもこれも入れすぎにシンプルに考えることも大事

進捗報告を行う（プロジェクトマネジメント）

関わる人が多くなるからこそ、丁寧な進捗報告を。  
ゴールに向けた情報の差を無くしながら、取り組む。

# 授業で必要になってくる教材・資料

## 【毎時必要な教材・資料】

1. 「学習展開案」「指導案」
2. 「ワークシート」
3. 「学習スライド」等

## 【都度必要な教材・資料】

1. 「効果測定資料」
2. 「当日運営進行表（ゲストが居る場合等）」
3. 「依頼文・お礼文」等

# 参考：毎時必要な教材・資料

## 学習画面（スライド）

### 「学習展開案」の作成

テーマ:あらから書庫02-超図解シート作成		日程:2020年6月18日+25日	
本時の目標	超図解シートを作成する。		
本時の流れ	あなたの疑問を解消する方法【アクション】は？		
学習の目的	①導入、②オリエンテーション、③ワーク、④質疑応答		
共有資料	①共有 01【学習展開案】あらから書庫02 ②共有 02【学習展開案】あらから書庫02		
配布資料	①配布 03【ワークシート】超図解シート作成【A4用紙用】 ②配布 04【メモシート】【A4用紙用】		
学習環境	①教室 ②ペンなどの筆記用具 ③スマートフォン		
00:00-01:00	2- 【導入】		
	- 今日行うことの概観、探究に関する疑問を解消する方法【アクション】を学ぶ。	動画視聴準備	
	- 手 順: (1) 学習環境の確認(動画視聴環境、配布資料)	資料配布	
	(2) 本時行うことの概観		
01:00-02:15	12- 【オリエンテーション】		動画視聴
	- 授業説明: 疑問を解消するための方法を復習して、実習に移す準備をする。		
	- 手 順: プロジェクター→スクリーンに、共有02【動画】を再生		
02:15-03:10	12- 【ワーク①】疑問を調べ、仮説を立てる		黒板を使って
	- 授業説明: 配布03【ワークシート】を活用して、		先生も一緒に
	「何故か?」をおたしめ調査【調査】を書く。		やってみよう
	- 手 順: (1) 個人ワーク (7分)	OK	
	(2) 3-4人グループワーク (5分) 疑問と仮説をシートで共有		
	※疑問は、最終的に正解でも不正解でもOK。最初自分の仮説で考えることが大事。		
03:10-04:10	10- 【ワーク②】アクションを決定してみる		
	- 授業説明: 検証する方法【アクション】を考える		黒板や方角
	- 手 順: (1) 個人ワーク (5分)		から白い半紙
	(2) 3-4人グループワーク (5分)		がいたらフタ
	※アクションは出し分けがある。検証し合ってから実施できるように		コ
	お互いのアイデアを出し合っていてよかったら発表。		
04:10-05:00	4- 【質疑応答】		
	- 時間があまったら→1分間のかえりスピーチ(ペアで感想をしゃべる)		
	- 全体確認: ①Google Classroomに配布03の学習をアップロード		
	②振り返りフォームに入力する		
	- 備 考: 学習展開案まで(2-3時間)アクションをしてくる。		
	- 次 頁: アクションの結果共有から始まる予定、配布03を仕上げてくる。		

### 仮説を考える

「仮説」とは、

「もしかして○○なんじゃないか？」という  
自分の結果予測／予想のこと。

たくさん仮説が出てきてOK

仮説を考える中で新たな疑問が出てきてOK

### 学習動画

ZOOMなどを  
活用して収録・作成

### 仮説を考える

「仮説」とは、  
「もしかして○○なんじゃないか？」という  
自分の結果予測／予想のこと。

たくさん仮説が出てきてOK

仮説を考える中で新たな疑問が出てきてOK





# 参考：1時間の授業ではない場合

## 全体スケジュール表

NO	日程	ステップ	場所	授業のゴールと概要	授業の流れ	準備物
1	6/6	事前学習① エントリーまで	体育館	【探究型インターンシップガイダンス】 ・探究型インターンシップの概要と目的を知る。 ・今後の流れを知る、 ・仕事&企業リストを知る。 ・googleアカウントを作り、連絡できる体制を整える。	①概要を知る ②googleアカウントをつくる ③まとめ	
2	6/13		体育館	【探究型インターンシップの心構え】 ・「2030年の仕事予測シート」を通じて、実際に経験する仕事の未来を探究する視点を手に入れる。 ・視点①「社会の変化から」 視点②「興味・関心から」 ・「未来は劇れる」と思える意志を育む。	①説明を聞く ②体験する ③まとめ	
3	6/20		体育館	【仕事・企業エントリーの方法】 ・googleフォームを活用して、希望する企業のエントリー。基本的なICTスキルの獲得とともに運用経験を手に入れる。	①説明を聞く ②エントリーする ③まとめ	
【エントリー先の調整機関】 第一志望・第二志望などから、人数調整を行う。						
4	7/9	事前学習② 探究する視点 を手に入れ、 インタビュー 項目をつくる	教室	【エントリー先の発表！情報を収集して質問を考える】 ・エントリー先の基本情報を収集する。 ・マインドマップシートを活用して、①自己紹介の種、②インタビューの種、③理想と現実の種を言語化する。	①説明を聞く ②基本情報の収集と質問を考える ③まとめ	
5	7/16 4限		体育館	【ビジネスマナー研修】 ・外部講師からマナーを学ぶ。 ・マナーとエチケットの違いは？ ・なぜビジネスマナーが必要？ ・人と関わるうえでのボイストレーニング&敬語練習。	①説明を聞く ②マナーを会得する ③まとめ	
6	7/16 5-6限		教室	【アポイントメント研修・準備】 ・実際に生徒自身がエントリー先の企業等に電話でアポイントメントをとるための準備。 ・アポ取り台本を活用したロールプレイング。	①説明を聞く ②ロールプレイング ③まとめ	
7	7/17 5-6限	事前学習③ 直前確認	教室	【アポイントメント実践】 ・実際に生徒がアポイントメントを取る日。 ・企業ごとにグループをつくり、レンタル携帯を使ってアポイントメント。もしアポイントメントが取れない場合は、メールが後日対応に切り替え。 ・アポが取れたら、メール送付。	①説明を聞く ②アポイントを取る ③まとめ	
8	7/18 連絡のみ		体育館	【探究型インターンシップ連絡】 ・目的の確認。 ・夏休み中にも企業担当者との連絡を行う場合がある。その場合は、担当教員をCCに入れて連絡しておくように。 ・インターン実施日より先に経験する生徒は、前日に必ず担当教員のもとへ訪れて最終確認を行う。	①目的を確認する ②質疑応答 ③まとめ	
【夏休み期間】						
9	8/27	事前学習③ 直前確認	体育館	【最終オリエンテーション】 ・目的の再共有。必要資料、日誌の書き方等の確認。 ・緊急事態の連絡体制の確認。 ・すでに経験した生徒からの体験報告。	①目的を確認する ②最終確認する ③まとめ	

## Googleドライブ等で資料共有

共有ドライブ > あらびき探究推進部 > 21年度探究計画 > 表

名前	オナ	最終更新
200611 コーポレート経営者向け	Katsuki Shimura	2020/11/30 日付
200618 福島の観光シート作成	Katsuki Shimura	2020/11/30 日付
200702 アクション共有		2020/11/30
200716 学びのプランゼンテーション作成		2020/11/30
200730 学びのプランゼンテーション		2020/11/30

## 【フェーズ3】 実施・振り返り

「授業・プログラム」の当日運営は、誰もがそれぞれで動ける状態を。  
実施した後の効果測定（評価）も、行って次なる改善へ。

調査・現状把握

設計・調整

実施・振り返り

改  
革

### 对学校

- ✓ 当日運営支援
- ✓ 効果測定・フォローアップ
- ✓ 実施記録・報告書等

### 对地域社会等

- ✓ 当日支援
- ✓ 実施記録・報告書等

### 主な役割分担を明確して運営する

授業前後の役割、授業中の役割を明確に意識して、各主体に任せて取り組んでいながら運営する

### 効果測定は“量的”・“質的”どちらも

「目標」に対しての効果測定はすぐに表れるものではないことを前提にしつつも、質問紙などで行う

### 児童・生徒の“変わる瞬間”を見逃さない

児童・生徒が授業中の様子を意識的に見取って、各主体にフィードバックしながら、さらによりよく

# 当日運営：ある授業の基本的な学習の流れ

## ●導入／学習動画視聴 15分

- ・ 事前に収録した学習動画をクラスで流す
- ・ 本日の学習目的や内容を学ぶ
- ・ 学習動画ではない場合は、クラス担任が伝達する



## ●ワーク 30分

- ・ 個人／ペア／グループワークを行う
- ・ 担任・副担任が伴走する
- ・ 授業によってはNPO DNAスタッフがサポートへ



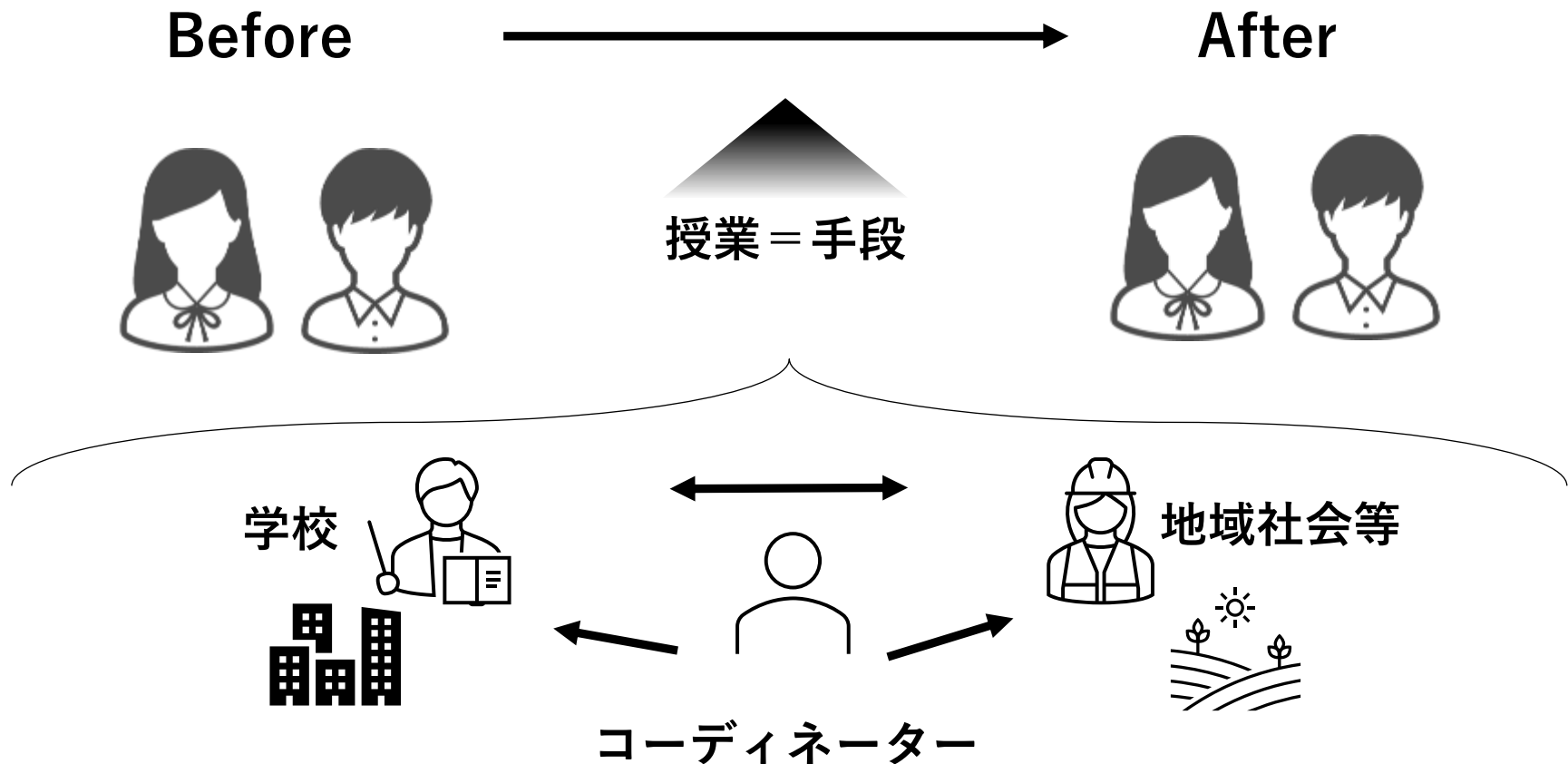
## ●振り返り 5分

- ・ 振り返り／まとめ／次回予告

この時、コーディネーターは各主体が運営していけるように、  
各種サポート。もちろん児童・生徒にかかわり続けていく。

# 教育コーディネーターとして 私たちのあり方

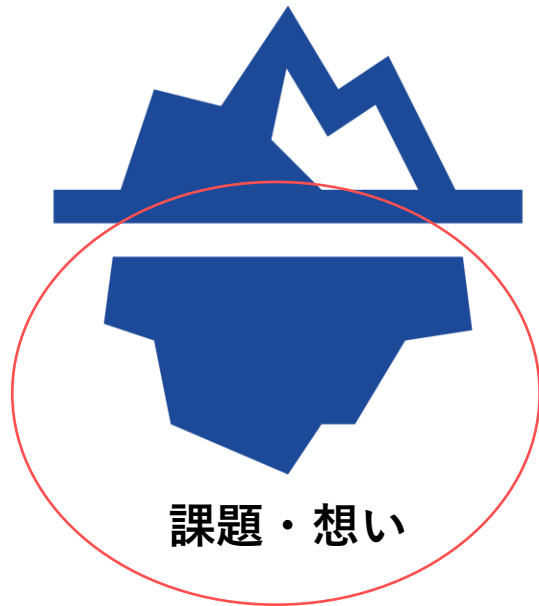
# 本質1. 子どもたちの力が育まれるために、協働を促す



子どもたちがどんな力を身に付けるのか？という目的・目標に対して、  
手段を創り出す。その過程に、様々な人々の参画と協力を整える。

## 本質2. 「現状→未来」で考えて実践していくこと

現状



課題・想い

情報提供

プログラム  
設計・提案

解決策

問い・  
試行錯誤

協働する人々  
との接点

目指したい未来

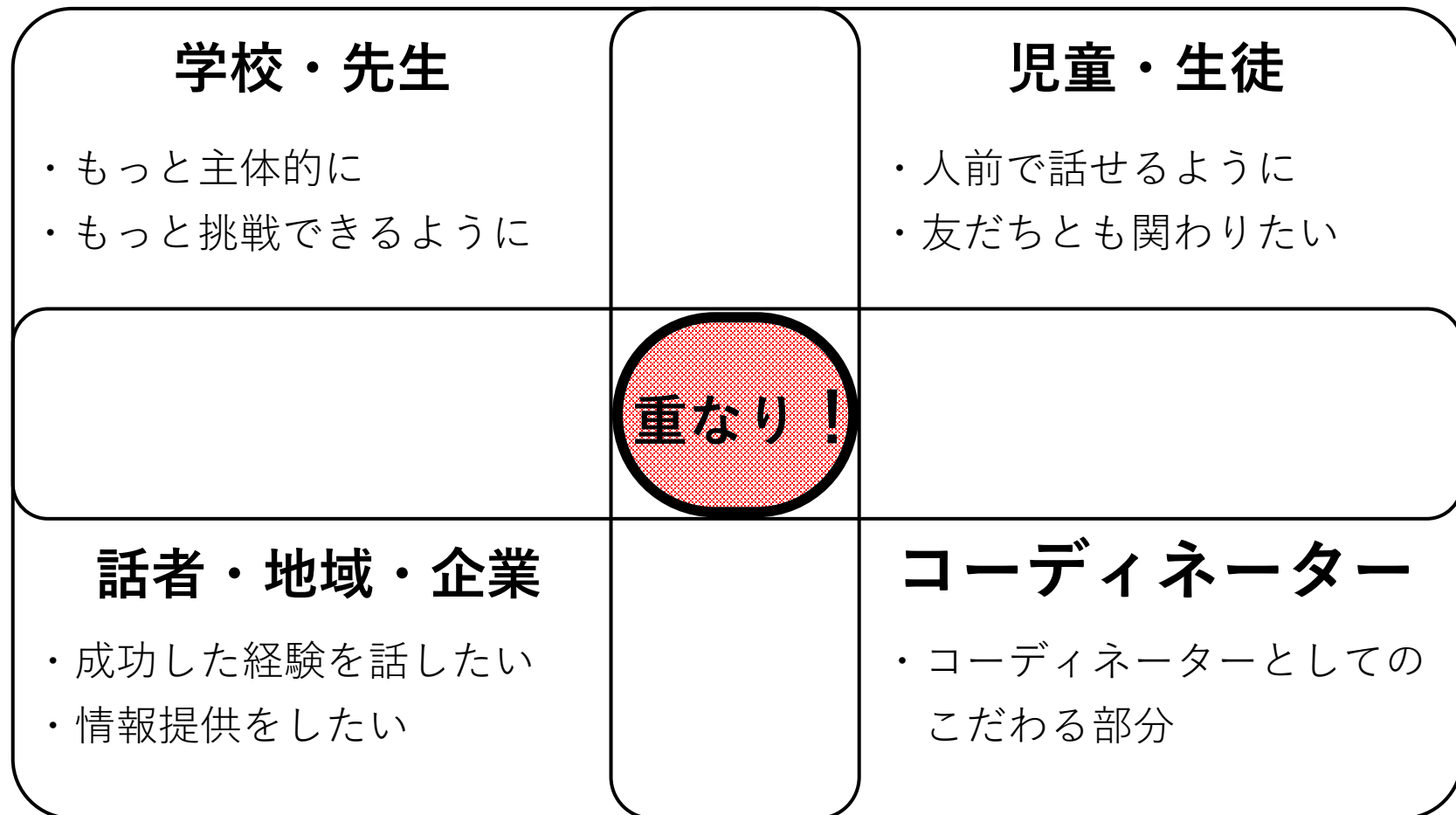


- ✓ 「現状→未来」（課題・解決・未来）をフレームを入れて取り組む
- ✓ 課題・想いが具体的ではない場合も多い故に、その言語化から行う
- ✓ 関わる人々との関係構築から目指したい未来に向けてまで

コーディネーターとして常にこのフレームを頭の片隅に置いて、

目指したい未来に向けて駆け抜ける！

# 本質3. 多様なステークホルダーと協働する“つなぎ役”



そこに集う人々の多様な背景を理解し、協働を促すことが  
“教育コーディネーター”の本質的な役割